

一西だより



豊川市立一宮西部小学校通信
令和 8年 2月 25日 第32号
発行;校長 村上謙一

【学校運営協議会の様子】

2/4(水)、7年度最後の学校運営協議会を開催いたしました。学校評価アンケートから、本校の今年度の取組を振り返りました。委員の皆さまからは次のような温かい応援の声をいただきました。勇気100倍、子供を主語にした教育を推進する者としての使命感を新たにしました。

「サポーター活動1年目は、先生方とは話しにくいし、教室にも入れなかった。3年目となる今年は、先生方から、教室に入ってくださいと声をかけてくれるようになり、子どもからも元気なあいさつがもらえる。地域の学校を目指す取組が浸透している。」

「チーム担任制への挑戦など、新しい試みは苦労も多いだろう。いろんな声も聴く。だが、東三河で唯一の取組であることを児童も教職員も、誇りをもって自覚できるといい。こんな素晴らしい経験は一西小しかできない。すごいことをやっているのだ。そんな幸せは後から振り返って気づくこともある。今あなたたちはその只中にいるのですと・・・。」

「チーム担任は設計1年、試験運用1年を経て本格実施している。8年度に見事な花が咲くことを期待しています。」

【マラソン大会実行委員長、副委員長の言葉】

今年のマラソン大会は、「昨年形では真剣勝負ができない」と考えた児童が中心になって企画しました。ただし、走るのが得意な人も、得意でない人も、助けが必要な人も、すべてが満足できるウェルビーイングなマラソン大会にするが条件です。今年形がどうであったのか、企画した児童が事後アンケートをとって5年生に引き継ぎます。実行委員の2人は大会後、校長室で次のように語りました。

「話し合いで意見が一致しないときが困った。ガチラン部門とエンジョイ部門のネーミングは難しかった。でも他人の意見を聞くことができるようになり、人前で言葉をつまらせずに話せるようになった。やってよかった。」(委員長の望月琉亜さん)

「みんなが本当に楽しめたかどうかはわからないけど、『他人を大切にできる力』を使って、走りたくない人によりそった企画ができた。達成感がある。やってよかった。」(副委員長の後藤然さん)

当事者として課題の解決に主体的に取り組んだりリーダーの言葉です。為すことで学んでいます。一西小はこんな経験(学び)を大切にしています。

【入学説明会】

2/5(木)、入学説明会を開催しました。8年度は81名の新しい仲間をお迎えできる見込みです。恒例のPTAバザーも大人気でした。



【認知症サポーター養成講座】

1/30(金)、6年生が認知症についての理解を深めました。全員に認知症サポーター認定書をいただきました。



【シールつくりプロジェクト】

今年の一西小はたくさんのプロジェクトが動いています。2/9(月)、シールつくりのプロジェクトでは、木工用ボンドを使ったオリジナルシールの作り方をみつけた人たちが、シールの作り方をやさしく伝えていました。



【PTA 委員会】

2/13(金)、7年度最後のPTA委員会を本校図書室で開催しました。本年度も学校及び市の取組に多くの会員の皆様のご協力をいただきました。誠にありがとうございました。

【演劇プロジェクト】

2/18(水)昼放課、子供たちが立ち上げて準備をしてきた演劇を発表しました。大道具小道具の製作には低学年の友達も参加してくれました。



【民生児童委員会】

2/18(水)、今年度最後の会を校長室で開催しました。委員の交代も行われ、新たなスタートを切りました。子どもたちの様子も見ていただきました。



【青少年健全育成連絡協議会】

2/20(金)、今年度最後の会を図書室で行いました。0の日の挨拶運動など、子供たちに寄り添う取り組みをしていただきました。地域の大人の姿があたり前にあることで、子供たちは大人を信頼する心が育みます。